審査の結果の要旨

氏名　中村　絵里

近年、多くの開発途上国で就学前教育の重要性が指摘されながらも、就学前教育機関の整備は進んでおらず、家庭教育の果たす役割が極めて大きい。それは、本研究の対象国であるモンゴルにおいても例外ではない。とくに、地方で生活する遊牧民の子どもたちは、季節ごとに家畜と共に移動生活を送るため、就学前教育機関に通うことが難しい。また、首都ウランバートルでも、ゲル地区と呼ばれる社会経済的に厳しい地域では、就学前教育機関が整備されていない。加えて、現在の親世代には、社会主義体制からの転換期で学校教育が混乱した時代に育ったため、十分な教育機会を得ることができなかった人も多い。

こうした状況の中、初等教育への就学レディネスを高めるために必要な、親の教育関与をどのように促進するかということが、モンゴルにとって重要な課題となっている。そこで、本研究では、モンゴルにおいて就学前の子どもに対する親の教育関与が、どのように行われており、それが子どもの主体的な学びをいかに促しているのかを明らかにした。

本論文は、全９章で構成されている。序章では、問題の所在と研究の目的を提示した。第１章では、途上国における一般的な教育課題とモンゴルの教育状況を概説し、なぜ幼児期から学童期にかけて親による教育関与が求められるのかを論じた。第２章では、親の教育関与に関する国内外の先行研究をレビューし、教育関与と家族の資本との関係を検討した。第３章では、幼児期における子どもの主体的な学びの重要性を踏まえ、就学前教育機関での子どもの学びと他者との相互作用について考察を行い、家庭での学びと教育の媒介者となる親の役割について、モンゴルの文脈に沿って論じた。

第４章から第７章では、モンゴルで行った４つの調査結果を提示している。いずれの調査も、質問紙調査と半構造化インタビューを組み合わせて実施した。第４章では、地方の遊牧民を対象とした自宅学習のための教具に関するワークショップでの調査を通して、親の教育関与には、多くの教具を所有することよりも、親本人の教育アスピレーションがより大きな影響を及ぼしていることを明らかにした。第５章では、同じく遊牧民を対象に自宅学習への支援に関する調査を行い、家庭での学習に対して小学校教員からの支援などが提供されることで、親の意欲と教育アスピレーションが向上し、親の教育関与が促進することを検証した。第６章では、首都のゲル地区における調査結果を踏まえ、教育関与には社会関係資本の多寡が大きく作用するため、貧困地域の社会的特徴を踏まえた支援のあり方を検討することの重要性を明らかにした。第７章では、大学生を対象に自らの幼児期を振り返ってもらい、コミュニティの中で社会関係資本が醸成されていた地域ほど、親の教育関与も活発であり、子どもの主体的な学びが促されたことを確認した。これらの研究成果を踏まえ、終章では、モンゴルの社会的文脈を踏まえた親の教育関与のあり方について論じ、今後どのような課題を克服することが必要であるかを明らかにした。

本研究は、家庭教育の役割が大きい途上国の就学前教育に関して、親の教育関与を促進し、子どもの主体的な学びを促す要件として、親の教育アスピレーションと社会関係資本が重要であることを実証的に明らかにした。途上国の就学前教育に関する研究は、国際的に見ても未だ十分な蓄積がない中、本研究は学術的にも、社会的にも、重要な貢献をするものであると高く評価できる。よって、本論文は博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。